

令和 4年度

事務事業評価表（ 令和 3年度 の実績評価）

記入年月日
令和 3 年 4 月 21 日

事務事業名		立志事業助成事業						事業区分		担当		
								新規/継続	継続	事務事業No.	020101000154	
								単独/補助	単独	所属課	090101	
政策体系	総合計画の施策名	0201		学校教育の充実								
	政策名	02	生きがいを育む学びのまちづくり									
	施策名	01	学校教育の充実						課長名			
	手段名	01	①教育内容の充実						グループ			
										担当者名		総務グループ
財務会計上の位置付け								事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計					
	01	10	01	80	00	00	単年度繰返し（平成17年度～）					
法令根拠								期間限定の場合、総投入量を（3）投入量の右側に記入				

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その1）

(1) 事務事業の概要		①事務事業の概要（事務事業の全体像）		②担当者が行う業務の内容・やり方・手順	
手 段	中学校第2学年及び義務教育学校第8学年生徒が立志事業（立志のつどい・立志文集の作成など）を通して自己を理解するとともに、自分の進路、夢を考える機会とし、自己実現への意欲の高揚を図ることを目的に各中学校において立志事業を実施している。 この事業に要する経費は各中学校とも予算令達により執行している。			学校予算配分事務・執行管理指導	

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段（担当者の活動内容）	④活動指標（活動量を表す指標）	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
学校予算配分事務	立志のつどい実施校数	校	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象（誰、何を対象にしているのか）	⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
桜川市内中学校第2学年及び義務教育学校第8学年生徒	中学校の第2学年（義務教育学校第8学年）生徒数	人	357.00	321.00	316.00	294.00	300.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図（この事業によって対象をどう変えるのか）	⑥成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
自分の進路や生き方を考える機会を与える。	立志のつどい参加者数	人	357.00	321.00	316.00	294.00	300.00
	記念文集作成者数	人	357.00	321.00	316.00	294.00	300.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量（事業費）の推移

		02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	期間限定 総投入量
		(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)	
投 入 量	事業費 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	
		使用料・手数料	千円	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	
		一般財源	千円	709	379	533	
		事業費計（A）	千円	709	379	533	
	正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人		

		03年度事業費 実績（千円）		04年度事業費 予算（千円）	
事 業 費 の 内 訳	07 報償費	10		07 報償費	10
	10 需用費	369		10 需用費	423
				13 使用料及び賃借料	100
	合計		379		合計

事務事業名	立志事業助成事業	事務事業No.	20101000154	所属課	学校教育課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
中学校第2学年及び義務教育学校第8学年生徒は、中途の学年で、目標を失いがちな学年である。このような学年に立志事業を行い自己を見つめ直し、自分の進路や生き方などを考える機会を与えるために事業を開始する。開始年度は不明（武家社会の元服式を真似た行事）特に変わった点はない。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
保護者からは大変有意義な事業と評価されている。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
廃止	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 中学校第2学年及び義務教育学校第8学年生徒に、立志事業を通して自己を見つめ直し、自分の進路や生き方などを考える機会を与えるための事業なので、学校教育の充実に結びつく。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 中学校第2学年及び義務教育学校第8学年生徒に、立志事業を通して自己を見つめ直し、自分の進路や生き方などを考える機会を与えることは、市教育委員会の責務である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない それぞれの中学校及び義務教育学校の生徒が主体となって、毎年立志事業の内容を工夫して実施している。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 中学校第2学年及び義務教育学校第8学年生徒が自己実現の意欲の高揚が図れなくなる。	
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合)
	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合ができる 具体的手段、事務事業名 教育振興事業 令和3年度より予算を各学校の教育振興事業に組み入れることになった
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 事業費削減に向けて毎年事業を工夫しているが、現時点では無理である。人件費においては学校予算執行に係る必要最小限の指導事務で削減の余地はない。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 中学校第2学年及び義務教育学校第8学年全生徒を対象にしているため、受益負担は公平・公正である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
①目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	中学校第2学年及び義務教育学校第8学年生徒が対象であり、立志事業を行うことで、自己を見つめ直し、自分の進路や生き方などを考える機会を与えるための事業（武家社会の元服式を真似た行事）。各学校において、特色ある事業を行っている。令和3年度より予算を各学校の教育振興事業に組み入れることになった																						
②有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																							
③効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																							
④公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																							
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 現状維持		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 令和3年度から各校の教育振興費に予算を統合した。各校の実情に合わせて実施しており、また教育振興の一環として行うものであり、事務事業の統合を検討が可能と考える。		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持	○																						
	低下																							
		(6) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果																						
		⑤																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> A A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input checked="" type="checkbox"/> 確認